



踊りや衣装に琉球舞踊の特徴をもつ二番組。

この踊りは、大和(日本本土)の踊りである二番組と、琉球舞踊の二番組で構成されており、それぞれ交互に奉納されます。川のない与論では雨が命をつなぎ豊作をもたらすことから、最初に「雨賜り」という雨乞いの演目が両組合同で行われます。二番組が演じる「扇踊り」では、紺色に統一された衣装に頭巾で顔面を覆った踊り手が、優雅な手踊りや扇踊りを披露します。恋や自然を唄つ

大和文化と琉球文化の特徴を併せ持つ伝統芸能



狂言の要素を取り入れたユーモラスな一番組。

鹿児島県最南端の与論島に伝わる「与論十五夜踊り」は、室町時代の永祿4年(1561年)に創作され、約460年もの長きにわたり島民の間で大切に踊り継がれてきました。島内安穏と五穀豊穡を天の神に感謝・祈願するため、毎年旧暦の3・8・10月の15日に行われます。この踊りは、大和(日本本土)の踊りである二番組と、琉球舞踊の二番組で構成されており、それぞれ交互に奉納されます。川のない与論では雨が命をつなぎ豊作をもたらすことから、最初に「雨賜り」という雨乞いの演目が両組合同で行われます。二番組が演じる「扇踊り」では、紺色に統一された衣装に頭巾で顔面を覆った踊り手が、優雅な手踊りや扇踊りを披露します。恋や自然を唄つたこの演目は、男女の関係を神と人との関係に重ね合わせているといわれています。最後を飾るのは、一番組の狂言を取り入れた寸劇仕立ての演目。二番組とは対照的に白色の衣装で大きな仮面をつけた踊り手が、室町時代の言葉と与論の古い方言が交じった台詞や太鼓の音色とともに力強く踊ります。奉納踊りが終わりを迎える頃、東の空には月が顔をのぞかせ、見物客も一緒になって踊る場内は大歓声に包まれます。

【与論町】
与論
十五夜踊り

国指定無形民俗文化財

島内安穏・五穀豊穡を祈る
与論島の伝統行事
「与論十五夜踊り」を
ご紹介します。

祭りの舞台

地主神社

開催日： 4月7日(火)(旧暦3月15日)
10月1日(木)(旧暦8月15日)
11月29日(日)(旧暦10月15日)

住 所： 大島郡与論町城(地主神社境内)

駐車場： 約50台(無料)

T E L： 0997-97-2441(与論町教育委員会)



社殿近くの広場が祭りの会場(左奥が社殿)